



## 社員の声を無視する社友会による

# 春闘破壊を許さない横浜地本青年部声明発出！

### 社員の声を無視する社友会による春闘破壊を許さない横浜地本青年部声明

職場で奮闘されている青年部員のみなさんに心から敬意を表するとともに青年部運動にご理解とご協力をいただき感謝を申し上げます。横浜地本青年部は、春のたたかひの取り組みとして「全青年部員総対話行動」を行ってきた。青年部員と直接会って対話することにより、お互いの本音の議論を積み重ねてきた。常任委員一人ひとりが対象の青年部員を確定させ、組合員のみならず未加入者にも対話を広げてきた。それにより、会社や社友会にはできない約9割の青年部員の意見を集めた実践を教訓にしてJ R 東労組の力に近づけていく。

この間会社は期末手当のたたかひの団体交渉で、コロナ禍以前は「突出感」を、赤字の時では「足元の業績が悪い」、業績が回復基調になると「好循環を生み出してから」を理由に期末手当を出し渋ってきた。赤字・コロナ禍以降、社員は黒字に向けてコストカットや増収活動などを取り組んできた。しかし、黒字に転換してからは「楽観視できない」と社員の奮闘に全く応えていない。2022年度第3四半期決算では、連結決算で増収増益となった。この黒字転換という結果を生み出したのは少しでもコストカットのために職場で血の滲み出るような努力と、さらには「究極の安全」をめざし安全安定輸送を担ってきたからこそ成し得たものであり、現場の組合員・社員のたゆまぬ奮闘があったからである。この努力に経営陣は何も応えていない。物価上昇に対して社員が生活できるための社会的責務が企業にはある。生活に不安を抱えながら働いている社員の声に耳を傾けるべきだ。

総対話を通じて、「賃金が物価上昇に追い付いていない」といった声を多く聞いてきた。これは、昨今のウクライナとロシアの戦争によって、燃料費などが高騰していることが大きく影響している。我々はすでに戦争に巻き込まれているのである。平和な世の中であるから賃金を求めることができる。賃金引上げを求める事と同時に、平和な世の中をつくるには何ができるか一人ひとり考えなければならない。

今年に入り、一部支社の社友会が会社幹部と意見交換を行い、ペースアップのお願いをしていると聞いている。社友会はこれまで期末手当の要求の際に「赤字の中これだけもらえてありがたい」など「一部の声」によって社内世論を形成し、2022年度の年末手当交渉でJ R 東労組が集めた6000件の声をかき消し、賃金や生活実感まで引き下げた張本人であることは火を見るよりも明らかである。そのような組織は、労働者らしく賃金引き上げを語るべきではない。その要望は「社友会員の声」とはしながらも、職場で「要望は聞かれたのか」と聞くと「聞かれていない」と返ってくる始末で、このことから社友会の中でも、何も知らされていない会員も多くいることも事実である。整合性が計れない組織に所属しては一部幹部に引き回されるだけである。一部幹部によって組織運営を進めると、いつかは破綻する。そのことを社友会会員にも訴えて自覚させなければならない。

矢継ぎ早に出される施策や要員不足による疲弊感など、このままではモチベーションが低下する一方である。今の会社に幻想を抱いてはならない。会社と交渉できるのは社友会ではなくJ R 東労組だけである。物価上昇・生活実態と過去最高の働き度に見合った賃金を2023春闘で勝ちとるため、J R 東労組はJ R 総連春闘方針に基づき奮闘していく決意である。労働条件をより良いものにするには何をしたら良いかを議論していくために、J R 東労組の旗の下に集まり、働きやすい職場をともに作りあげようではないか！

2023年2月26日  
東日本旅客鉄道労働組合  
横浜地方本部青年部常任委員会

私たちの「本当の声」は会社に届いているのだろうか？  
今こそJ R 東労組に結集し、23春闘をともにたたかおう！